

船舶事故調査報告書

令和7年1月22日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和6年3月24日 05時00分ごろ
発生場所	千葉県館山市洲崎 ^{すのきま} 西方沖 洲崎灯台から真方位296°420m付近 (概位 北緯34°58.6′ 東経139°45.2′)
事故の概要	プレジャーボート ^{ゲッコ} GEK0は、東進中、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和6年4月10日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート GEK0、4.6トン
船舶番号、船舶所有者等	230-42790東京、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	アウトドライブが脱落
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北西、風速 約6m/s、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 高潮時 日出時刻：05時39分ごろ
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人1人を乗せ、釣りの目的で、東京都中央区の亀島川を出航し、洲崎南方沖の釣り場に向かった。</p> <p>船長は、GPSプロッターを作動させ、操縦席に腰を掛けて手動操舵で操船に当たり、本船が約23ノットの対地速力で洲崎北西方沖を南西進中、いつしか居眠りした。</p> <p>本船は、その後東進して洲崎西方沖に向かって航行を続け、洲崎西方沖の浅所に乗り揚げた。</p> <p>船長は、携帯電話で118番通報を行った。</p> <p>本船は、海上保安庁の要請を受けた近隣の水難救難所の救助船により、館山市坂田漁港にえい航された。</p> <p>船長は、本事故前日、ふだん釣りに行くときと同様に6時間くらいの睡眠をとっており、本事故当時、疲労や眠気を感じておらず、これまで航行中に居眠りしたことがなかったので、まさか居眠りすることはないと思い、立ち上がって身体を動かすなど、居眠り防止措置を採っていなかった。</p> <p>船長は、居眠りしている間に、無意識のうちに左舵を取ったのかもしれないと本事故後に思った。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.6m、船尾約1.5mであった。</p>
分析	本船は、手動操舵で南西進中、船長が、居眠りしたことから、無意識のうちに左舵を取っていることに気付かず、浅所に乗り揚げたもの

	<p>と考えられる。</p> <p>船長は、疲労や眠気を感じておらず、航行中に居眠りしたことがなかったことから、居眠りすることはないと思い、立ち上がって身体を動かすなど、居眠り防止措置を採らず、操縦席に腰を掛けた姿勢で操船を続けたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、手動操舵で南西進中、船長が、居眠りしたため、無意識のうちに左舵を取っていることに気付かず、浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船長は、航行中、同じ姿勢で操船を続けずに時々身体を動かし、ガムを噛む^かなどして、居眠り運航の防止措置を採ること。 ・ 船長は、未明の時間帯に出航して遠方まで航行する場合は、途中で休憩し、覚醒水準が低下しないように注意して操船に当たること。